

発掘調査からみる江戸と近郊農村

20201212

－下宿内山遺跡の成果とからめて－

堀内 秀樹

(東京大学埋蔵文化財調査室)

はじめに－歴史時代の考古学－

これまで考古学は文字の無い（少ない）時代や地域などが研究の中心

→発掘調査もこうした時代や地域を対象

しかし！ → 江戸時代、北海道、台湾、加賀藩邸など



行為と痕跡

1. 都市江戸とのかかわり －「もの」から読み解く「まち」と「むら」－

近世遺跡：他地域と複合的・有機的に機能するシステムの一部

※場として複合的に機能

→諸行為を行う場として－都市、農村、城郭、河岸、宿場、寺社・・・

※近世遺跡出土遺物のほとんどは商品

(1) 江戸と地廻経済圏

①利根川東遷事業と「江戸地廻経済圏」

・利根川と渡良瀬川と鬼怒川を結合

・利根川本流を江戸湾から太平洋に

※寛文5（1665）年完成

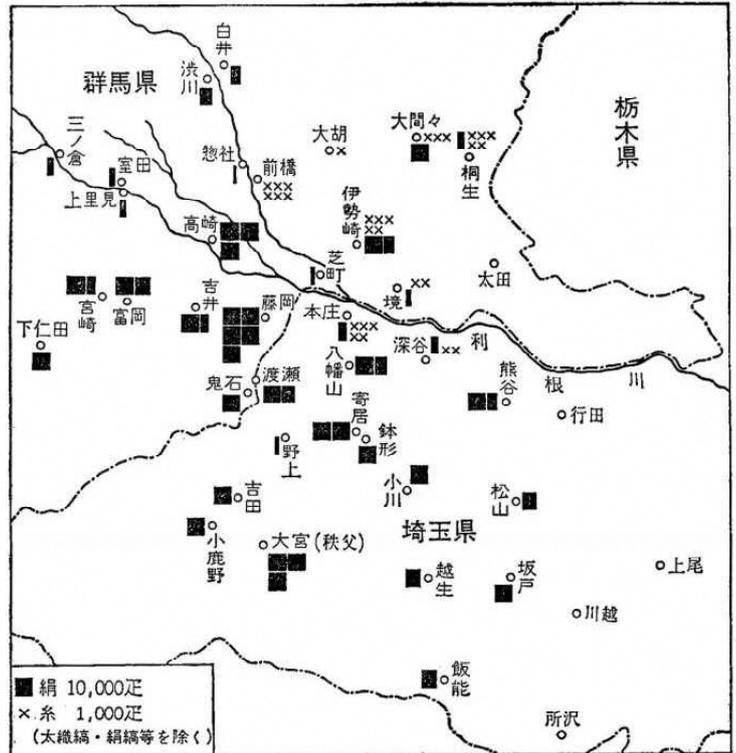
→太平洋から江戸湾までの物流ルート

→関東内陸地域を結節

○江戸中期以降に内陸河川を利用した江戸を中心とした「江戸地廻経済圏」の形成

○産物と生産地

- ・野田・銚子（醤油）
- ・小山田（たばこ）
- ・八日市場、上総、真岡（木綿）
- ・秩父、上州（絹）
- ・佐野（麻）
- ・結城（織物）
- ・程村、西のうち（紙）
- ・多摩（炭）



天明初期の関東絹市

（林玲子1969「近世中後期の商業」『体系日本史叢書13 流通史』山川出版社より抜粋）

②ケーススタディ1 天明浅間災害遺跡

天明3（1783）年の浅間山の噴火

→火砕流と土石流で利根川下流域に大きな被害

これらによって集落、農耕地などが使用時ののまま埋没

cf. ポンペイなど

※ハッ場ダムの建設によって悉皆的に発掘調査

（2）江戸と近郊農村

近郊農村：都市江戸とバックヤード

①近郊農村の特徴：江戸に近い

- ・農産物（下肥値下げ運動）
 - 練馬大根、稲毛梨、岩付ねぎ、
- ・黒川炭、多摩炭
- ・砂利（多摩川、利根川）
- ・木材
- ・八王子石灰（青梅成木）
- ・飯能焼
- ・川越ひら

② 都市と村落

○ 江戸(都市)の様相

※ システムとして

- ・ 販売システム 通りシステム 屋号が書かれた徳利
- ・ 購入システム デリバリー 屋号が書かれた大皿、鉢類など

※ 文化として

- ・ 都市トレンド：動植物の賞翫 → 植木鉢
煎茶 → 土瓶、急須、茶碗
- ・ 生活様式：照明 → 灯明皿
暖房 → 火鉢、七輪、丸底ほうろく

2. 江戸はどんな都市？

① 徳川氏の拠点

最大の大名 旗本領を含めると 700 万石
商業都市（大坂、堺、長崎など）
主要鉱山（佐渡、石見、別子など）

※ 武士は城下町に居住

② 各大家の拠点

参勤交代と証人制度

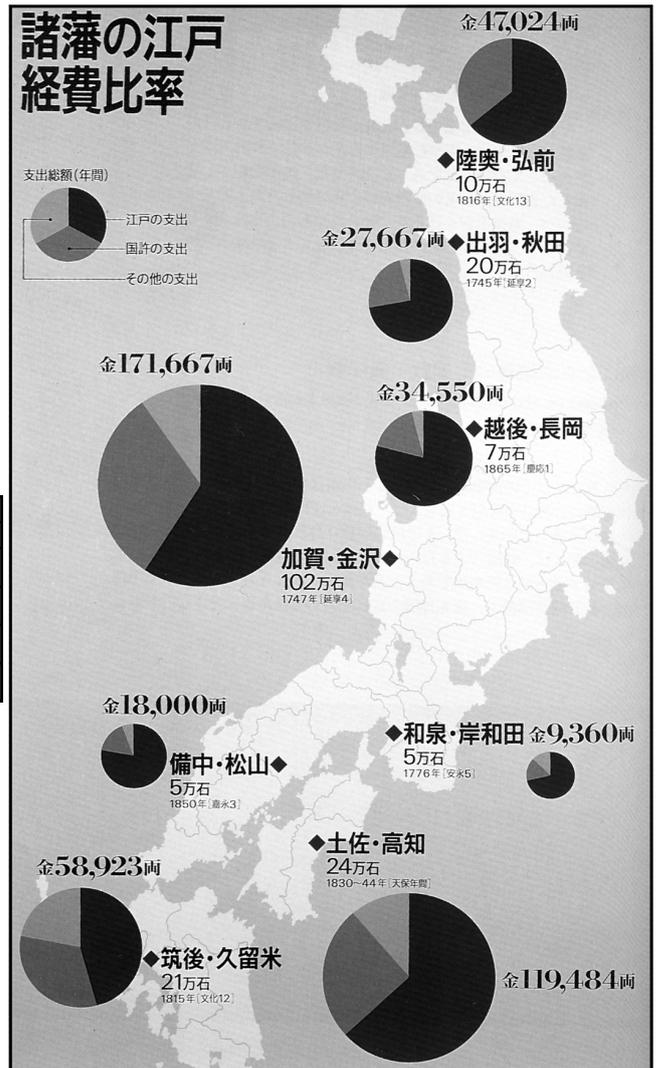
③ 偏った職業・人口構成

武士は城下町の居住
アンバランスな男女比

※ 武士の消費の動向は、江戸全体の消費に大きな影響を与えている

調査年	総数	男女内訳 (人、%)			
		男	比率	女	比率
享保18(1733)年	536380	340277	63	196103	37
延享4(1743)年	512913	322493	63	190420	37
天保3(1832)年	543623	297536	55	248087	45
弘化元(1844)年	559497	290861	52	268636	48

江戸の町人の人口構成



各藩の江戸経費の比率

(江戸東京博物館1997『参勤交代』より抜粋)